

---

# 立法熟魔女ーマゾカー

北 郷

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

立法熟魔女　―マゾカー

### 【Nコード】

N2592Z

### 【作者名】

北郷

### 【あらすじ】

大魔法界、魔歴12010年突如として経済大国”日の魔国”にちーちーばっばTTTPへの加盟論議が持ち上がった。当時の日の魔国首相からいきなり飛び出した発言がきっかけである。

このTTTPとは、魔法界では必要不可欠あらゆる魔法の本となる”魔法の種”の「関税」撤廃と、その「非関税障壁の為の魔法撤廃」のことである。だが、その実態はそんな簡単な言葉で表現出来るような生易しいものではなく、国の存亡に関わる内容であったのだ。”日の魔国”の運命は？！

## 荒廃した日の魔法国 その1 (前書き)

このお話はフィクションです。登場人物、団体、その他全てが実在のモノとは関係ありません。全てが空想の世界のお話とお受け止め下さい。

## 荒廃した日の魔法国 その1

「くっそー、マジかよ・・・」

マゾカはそう呟いた。

ちーちーばっば  
TTPP大魔法の影響がこの地にも及んだのである。

3年前に彼女がこの地に来た時には、毛質の良い緑色の絨毯じゅうたんが一面に敷き詰められた様な綺麗な農地が広がっていたのである。

ここは、何千年も前から食物魔法の原料となる”魔法の種”、「コメー」の栽培が盛んな地域であったのだ。だが、今では見る影もなく、一面が雑草に覆いつくされているのである。

マゾカは目を細め悔しそうに自分に言い聞かせる。

「だが、これはまだ、国土の一部なのだ」そう考えなければならな  
いと。

同士の中にはそう考えることを”切り捨て”と非難する者もいる。  
だが、マゾカはそうは思わない。

まず、少しでも残っている農地を守ることが先決なのだ。そして、  
そこを起点として荒廃した農地を順次復活させなければならぬの  
である。

今の政治情勢では、一度失ったものを復活させるのは非常に難し  
いのは歴然としているのだ。だが、残ってるものを継続させること  
であれば、何か方法があるかもしれないのだ。

0から1、”無”から”有”は難しいが、1が残れば10は見え

て来るはずなのである。

きっと何か、何かこの状況を覆す魔法があるはずなのである。それまでは、少しでも多くの農地を残さなければならぬ……。

そう思うと、3年前にこの地の農家の人達が、自分に見せてくれた熱い気持ちに頭を過ぐる。

「頑張るよ」「きっと、私たちは残ってみせるさ」と、マゾカに拳を握って笑って見せてくれたのだ。

しかし、きっと頑張りがれなかったのだ。無理もない話だ。マゾカはそう思う。

「必ず、取り返して見せる。だが、今は涙を吞んで待っていて欲しい……」

マゾカは天を仰いで、唇を強く噛み締める。

これも……、これも全て”あいつ”のせいである……。

「これがノブタ野郎の言っていた”高いレベルの経済連携”とやらの顛末か……。

一体、何が高いと言うのだ。開いた口が塞がらんは！」

現世37年（魔歴では12025年）かつては、魔法界で経済大国とまで言われたこの”日の魔国”も、不幸にもマゾカの最悪の予想に向かって疲弊し続けている最中なのである。

「くそめ、腹立たしい！」

マゾカはそう吐き捨てると心を落ち着かせようとしたのか、青紫

色のスーツ上着の内ポケットに手を入れ、未開封のタバコを一箱取り出した。

そして、それを少しの間手の中で転がすようにしてパッケージを眺めていたのであったが、不自然に何も書かれていないところを見つけると、眉間に皺を寄せて手を止める。

その部分は青い線で囲まれていて、あたかも何かが書かれているべきのデザインなのである。

マゾカはその部分を中指で徐に撫で出した。おもむろすると、指が通り過ぎるのに合わせて順次文字が浮かんでいくのである。

”健康の為、吸いすぎに注意しましょう”

そこに在るべき文字が浮んだのだ。

「まだ、印刷していたか・・・」

元々パッケージに書かれていた文字が、国土に埋め込まれた”大規模魔法”により消されてしまっていたのである。

マゾカはその文字に満足そうに頷くと、パッケージを開封して中から1本を取り出し、口に咥くわえる。

気のせいなのか、それだけの事に震えている様にみえる。

そして、指先でタバコの先端に触れれば、細い糸の様な煙が立ち上がり、先端が朱色に明るく染まった。マゾカはそれを確認すると、深呼吸をする様に肺の奥深くまで一気に煙を吸い込み、カッコよく吐き出そうとした。のだが・・・。

「ゴウオツホ・ホツホホ、オエ」

リバースしそうな顔で、大きくムセ返る。それと共に、地面に向かって唾液がタラ〜・・・。

「あゝあ、気持ちわりい・・・」

まぞかはタバコが苦手なのであった。

それを後ろからソワソワしながら見ていた女の子が、慌ててマゾカの背中を心配そうに叩いた。

「だ、大丈夫ですか、先生」

よく見ると、女の子ではない。立派な大人の女性である。

私立小学校の様なデザインの青いスーツに身を包み、髪型も小学生の様に肩までもない髪を黒いゴムでツインテールに止めているが、彼女の顔の作りも肌質も、どう見ても子供のそれではない。

細身の質素な顔立ちに薄化粧をして茶色のべっ甲のメガネを掛けているのは、マゾカの第一秘書イチルイ・ノゾミである。

「先生、何やってるんですか。もう〜吸えもしないのに、震えてるじゃですか・・・。

止めて下さ〜い。

それに、ちーちーばっば TTP魔法を打ち消すのは違法ですよ。魔法会議員の先生がそんなことをしているのが見つかったら、議会で追求されています！」

マゾカは、俯いて寂しそうにタバコを携帯用灰皿に始末をする。

その姿は、年齢の割りにサラサラしているワンレンボブの髪の毛が顔を半分隠しているせいか、妙に哀愁を感じさせる。

マゾカのフルネーム名はマゾカ・キョウカ。襟には菊の花をモチーフにした金バッチ輝いている。

マゾカはこの”日の魔国”<sup>まじく</sup>の第一魔法議会の中堅議員なのである。

マゾカはタバコの火の始末を終えると、ノゾミに向かい暗かった顔を一瞬にして、満面の笑みに変え、

「えー、違法？マゾカ、子供だから分かんない」

なんて、くだらないこと言う。

そんなことだから当然、ノゾミに叱られる。

「ふざけないで下さい！」

先生はそれでも、敵が多いんだから・・・」

「分かった、分かった、でも、見方も多いんだが・・・」

マゾカも笑いながら反論をする。反論はするが、笑いも自然に苦笑いに変わっていき、語尾が消えていく。

心は共にしていても、残念ながら”声”になる程の味方はそんなにいないのである。

周囲の理解が得られると言う確固たる保証を感じなければ、我慢の限界に達しない限り声に出す程の度胸のある人間はこの国にはそれ程多くはないのである。



だが、目の前に限界が訪れてからでは、取り戻すことは遙か先に遠退いてしまうのだ。

だから、マゾカは強い意思を集めている。

「そりゃあ、多数決が出来れば、今であれば我々は圧倒的勝利なのでしょうけど・・・」

ノゾミもその矛盾には悔しくて堪らない。

それは、当時でも国民に真意を問えば勝てたはずだと、マゾカは今でも思っている。

ただ、残念ながらそこまで漕ぎ着けることが出来なかったのである。

<つづく>

**荒廃した日の魔法国 その1 (後書き)**

けっして、ふざけて書いている訳ではございません。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2592z/>

---

立法熟魔女 ーマゾカー

2011年12月9日07時51分発行